

# 医療法人名南会 第57回定時総会特集号

## 第57回定時社員総会のご案内

法人定款第20条の規定による「医療法人名南会 第57回定時社員総会」を開催いたしますので  
ご通知申し上げます。

2021年4月 医療法人名南会  
理事長 三宅 隆史

●日時：2021年5月29日(土)

■開場・受付開始 午後1時30分

■総会議事 午後2時～5時

(新型コロナウイルス感染症対策により総会議事を短時間で  
行う場合があります。)

■場所 金山・労働会館  
東館2Fホール

名古屋市熱田区沢下町9-7  
地下鉄・JR・名鉄線金山総合駅下車、東口から徒歩10分



第561号(部内資料)  
(毎月1回、1日発行)

発行  
医療法人 名南会  
名古屋市南区豊田  
五丁目15番18号

発行責任者  
西本 義弘  
☎052-692-2388

## ● 2020年度の各事業所の活動のふりかえり ●

### 名南病院

2020年度の名南病院は「もっとも困難な人  
たちをチームでなんとかする病院」をビジョ  
ン(将来に対する挑戦的な目標)に掲げ、多彩  
な事業活動を進めてきました。

**1 新型コロナウイルス感染症対応**：職員  
のいのちと健康を守り、患者さんの受療権を守  
るために、この一年間全職員の総力を結集し、  
様々な対応を進めてきました。外来での発熱患  
者さんとその他の患者さんとの動線を分けるた  
めに、毎日正面玄関に職員を配置し、発熱症状  
などの確認を進めてきました。名南病院では3月  
末までに497件のPCR検査を実施。昨年8月以降  
は当院でのPCR検査が可能になり、さらに今年1  
月からは検査機器の導入により30分程度で検査  
結果が判明するなど、検査体制が拡充してしま  
した。昨年10月後半からは、愛知県が指定する  
診療検査医療機関として毎日、午前と午後の発  
熱外来を開設し、発熱患者さんへの診療を行っ  
てきました。入院患者さんへの面会制限が長期  
間に及ぶ中で、テレビ電話を活用したオンライ  
ン面会も実施してきました。



正面玄関で患者さんの発熱症状確認

コロナ禍による経済的困難が拡大する社会的情  
勢のもとで、受療権を守るとりくみも進めてきま  
した。初診問診票の「医療費や生活費の支払いが  
苦しくなることがありますか」という項目に○を  
つけた患者さんへの電話かけや、病院ホームペ  
ージ上への相談フォームの開設などを行いました。  
「保険ない、お金ない、名古屋、病院」と検索し、  
名南病院のホームページにたどりつき、相談・受  
診や無料低額診療事業の利用につながるケースも  
ありました。無料低額診療事業はのべ233件、新  
規承認は38件となりました。昨年10月と今年1月  
には「なんでも相談会」を開催しました。

**2 入院医療**：入院患者さんの高齢化が急速  
に進む中で、地域包括ケア・退院支援・在宅復  
帰支援の強化を目指してきました。認知症やメン  
タルケアを必要とする入院患者さんが増加す  
るなか、昨年夏からは精神科クリニックとの連  
携をはじめ、このクリニックの医師による月例  
の精神科リエゾンカンファレンスを開催し、入  
院症例の検討や学習会を開催し、医療の質の向  
上を目指してきました。昨年12月から入院患者  
さんの療養環境改善を目的に、希望する患者さ  
んへのタオル、シャンプー、コップなど日用品  
セットのレンタルを開始しました。

**3 外来医療**：名南病院では、2019年度から  
主治医が生活習慣病を中心に、他院の服薬状況  
の管理、健診・予防接種、介護保険の管理・相  
談まで、病気から生活全般を支える「かかりつ  
け診療」(地域包括診療料の届出・算定)を  
開始し、現在までに7名の医師が研修を修了し、  
診療を行っています。

各診察室の診察までの順番を受付番号で表示  
する「診察順番表示システム」も運用開始から1  
年が経過し、診察までの順番のわかりやすさな  
ど評価の声が出されています。

名南病院への通院に関わる困難をサポートす  
るとりくみとして開始した職員による患者さん

の送迎は2年目を迎え、現在は定期的に7名の方  
の送迎を行っています。

**4 医師の確保と養成**：コロナ禍で病院実習  
や医学生向けの企画の開催が困難な中でも、オ  
ンラインを利用した医学生向け学習会への職員  
派遣などを進めてきました。愛知民医連の初期  
研修プログラムにもとづいて6名の研修医が外  
科、糖尿病などの研修を行いました。医学生実  
習では、計11名の実習受け入れを行いました。

**5 地域組織活動**：地域訪問行動は計6回実施  
しました。新型コロナウイルスの感染対策とし  
て、電話による対話行動も取り入れて、のべ45  
名が参加。105件を訪問し52件の対話ができま  
した。資金募集運動も、感染対策で例年実施し  
てきた外来行動ができないなど様々な困難も伴  
いましたが、年度までに4,500万円の年間目標  
を達成しました。

**6 経営活動**：2020年度の年間利益目標  
(4,207万円)の達成に向けて、全職員への経  
営情報の発信などを重視してきました。2020年  
度は新型コロナウイルス感染症の影響により、  
入院・外来収益とも前年度から減少しまし  
たが、費用の削減や発熱外来開設など新型コロナ  
ウイルス感染症対応に対する補助金などによ  
って、前年度と同水準の経常利益を確保するこ  
うことができました。

**7** 2021年度は、引き続き新型コロナウイル  
ス感染症への対応を最重要課題に、外来での「か  
かりつけ医」診療の拡充や、多職種協働による地  
域包括ケア・退院支援・在宅復帰支援などを中  
とした入院医療の質の向上を進めていきます。

めいなん新聞は通常一世帯一部でお届けさせていただいていますが、今回は「総会特集号」のため  
社員、名南会協同基金協力者のおひとりおひとり一部ずつお届けさせていただきます。



## 名南ふれあい病院 介護医療院名南ふれあい病院 名南介護老人保健施設 かたらいの里 ヘルパーステーションきずな

2020年度は新型コロナウイルス感染症による影響があるなかで始まり、対策に追われながら医療・介護活動を行ってきました。

私たち職員は、これまで学んできた感染対策をもとに、この新しい感染症を病院・施設内で発生させないように対策し入院・入所者様が安心して療養できるように努めてきました。これまで大きな院内感染を起こさなかったのは患者様やご家族の方の協力があってのものだと思います。地域の方々からの応援メッセージは職員一同多に勇気づけられました。地域の皆様にお礼申し上げます。

マスクが報じていたように、新型コロナウイルス感染症は猛威を振るい、急性期の病院は逼迫した状況となりましたが、当事業所でも病院経

営や地域に向けての取組に対して、また、学習の機会が減少するなどの影響を大きく受けました。入院・入所のベッド稼働は第一四半期を過ぎた頃から低下し、空床が目立つ状況がありました。介護医療院は稼働予算を上回りましたが、回復期リハビリテーション病棟、介護老人保健施設では稼働予算を下回りました。訪問・通所サービスにおいてもサービスの利用控えなどで利用者の減少があり、収益は減少しています。特に通所リハビリテーションにおいては利用の減少が20%近く落ち込み経営に深刻なダメージを受けました。

そのようなコロナ禍のなかでも、わたしたちはリハビリテーションと介護で在宅復帰と在宅療養支援を行ってきました。リハビリテーションを必要とする脳血管疾患や骨折がなくなったわけではありません。逆に屋外へ出かける機会がコロナウイルスにより奪われ、身体機能の低下が進むといったこともありました。まさにこれは住み慣れた地域で住み続けられるようにするという当事業所の役割が発揮されるべきです。リハビリテーションと介護で自分たちがやれるこ

とを感染に気を付けながらやれる範囲で頑張ってきました。

地域組織活動も感染対策のために制限を受けました。共同組織の拡大や地域資金の募集運動も十分に行うことができませんでした。友の会員の拡大が思うようにできなかったことや、空調設備の更新をおこなうための5,000万円の協同基金の目標額に到達できない見込みとなったことなど新型コロナウイルスの大きな影響があったと言えます。しかしそのような中でも年間の地域訪問は過去最高の件数となり、協同基金は3,800万円近く集まり過去最高の金額となりました。

来年度はこのコロナ禍が続く中でも地域のために私たちの医療・介護活動を続けることができる経営としなくてはなりません。介護報酬改定対応を進め、法的整備もすすめていきます。名南会の事業所を利用したいと思っている方達に利用をしてもらえよう方法を検討していきます。地域の要望にこたえていくために協同基金の協力を訴え、地域の方々安心して暮らせる地域づくりに努力していきます。

## 名南診療所 デイサービス庵 訪問看護ステーションきずな

名南診療所は名南会の2病院(名南病院・名南ふれあい病院)、老健かたらいの里、ヘルパーステーションと連携し、予防医療や急性期治療から在宅介護サービスまで、地域の方の生活の多くの場面に関わりながら医療・介護活動を行っています。皆様の【住み慣れたおうちで暮らし続けたい!】という思いに寄り添うために、敷地内には訪問看護ステーションきずな、居宅介護支援事業所、通所リハビリ、デイサービス庵もあり、在宅療養のサポートに力を入れています。

名南診療所は、「在宅療養支援診療所」として365日24時間対応の体制で、体が不自由で通院が困難な方、人工呼吸器や点滴・経管栄養の管理、褥瘡ケア、がん末期を含むターミナル管理から看取りまで、さまざまな医療管理を必要とする方々の在宅療養を法人内外の医療機関や訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所などの関係機関と協力してサポートしています。

2020年度は【～在宅で暮らす地域の方々の生活を守るため～“3つのん(にんち・えんげ・かんわ)”をテーマにして、寄り添っていこう】がキーワードとなり、各事業所でそれぞれ目標を掲げて活動してきました。2020年度は新型コロナウイルス

感染症の影響により、入院すると面会ができないことから在宅で看取る選択をされる方が例年に比べて増えました。また、高齢化と共に外来通院が厳しくなり訪問診療(往診)に切り替わる方も増えています。外来は火曜日が休診となり受診者が前年に比べ毎月11～65名少なくなりましたが、健診では年間目標で掲げていた特定健診300件・大腸がん検診200件を達成することができました。訪問診療では、コロナによる面会制限等により在宅で看取るという選択をされる方が増加した方が多かった印象で、例年に比べ看取り件数は5割ほど増えました。月160名～180名の方のお宅に訪問診療・往診にうかがい、「家で過ごしたい」という希望をどのように実現するかをご本人・ご家族、そして多職種で支えてきました。

居宅介護支援事業所も地域の皆様の介護相談にも柔軟に対応できるよう努め、いきいき支援センターからの相談もコンスタントにあり、4月時点で78件だった件数が3月では114件まで増やすことが出来ました。要支援の方から要介護の方までどんな小さな介護相談にもご対応できるよう2021年も努めていきます。

通所リハビリは、今できる力を少しでも長く維持できるよう、利用者様それぞれに役割を持っていただくことを大切にしています。コロナ禍の中、感染予防に配慮しながら、皆様楽しく生き生きと過ごしていただける様、ケア・サービスの質向上に努めました。

デイサービス庵では、コロナ禍で大きくプログラムや行事の変更を余儀なくされましたが、ガイドラインに基づいた感染予防対策を徹底した1年

となりました。2020年度は新規利用者獲得のため、半日のご利用ができるようにし、3月末時点では管理数の約20%が半日をご利用なさっています。また、癌の終末期で在宅酸素を使用しながら、訪問看護と連携しデイサービスの受入れを行いました。2021年度も、引き続き半日のご利用や医療依存度の高い方の受け入れも積極的に行っていきたいと思えます。

訪問看護ステーションきずなは、コロナ禍でも利用者が減ることなく感染対策を取りながら取り組んできました。特に、在宅勤務が増えたことでご家族の介護力が増したり、終末期のご家族をご自宅で看取る事を決意された事が印象的でした。今後も、ご本人・ご家族の気持ちを大切に、寄り添いながらサポートしていきます。

地域組織活動では、協同基金はコロナ禍で班会での呼びかけは出来ず、訪問行動もできませんでした。各事業所での直接の声かけ等を行い、多くの皆様のご協力を得ることができ、年間の目標協力金額の1,000万円を3年連続で達成することができました。内田橋トスカで開催されていた「健康ひろば」での健康体操や健康チェックの活動は感染拡大防止のため休止となり、活動ができず残念でした。

2021年度は休診日の火曜日・水曜日になにか地域のために出来ることはないかと検討しています。

名南診療所はどんな些細な事でも何か困った事があった際に、「そうだ!とりあえず診療所に相談してみよう!」と思っただけの“まちの保健室”を目指し2021年度も法人内・法人外の様々な事業所・友の会の皆様と連携・協力しながら、地域の方々の健康と生活を支えてまいります。

## 中川診療所 有料老人ホームひなた ヘルパーステーションひなた

### 中川診療所

外来は新型コロナウイルスの影響で、患者数が大きく減少しました。減少の理由としては、1カ月毎に処方していた方で長期処方を希望する方が増え受診回数が減った事、入所施設から外出禁止が出され診療所に受診できず電話再診が増えた事などです。下半期に入ってから急性疾患は増えず、

ほとんど定期患者さんのみとなりました。発熱外来を昨年10月から3月までの116日(土日祝、最終水曜日はなし)実施し、99件の発熱者の対応を行いました。PCR検査、抗原検査は81件実施、内陽性は9名でした。また、4月から始めた外来患者さんの送迎は当初は18名でしたが、今では30名以上となりました。免許証を返納し通えなくなったという方や家族の送り迎えが必要という方が大半です。

保健予防は新型コロナウイルス流行の措置として、4月中旬から5月末まで特定健診の実施ができなくなりました。第一四半期は収益予算から200万円ほどの赤字、7月から9月までは収益予算250

万円ほどの黒字となりました。冬期に流行る感染症対策として早めに声かけをした結果だと考えます。下半期は、インフルエンザ予防接種が昨年より100件以上多く、大きく予算を超過しました。特定健診についても声掛けを強化したため、特定健診の目標を達成となり、収益予算からも200万円上回りました。

デイケアでは新型コロナウイルスの予防として自主的に休まれる方も多く利用者数も予算には届きませんでした。毎月1名の新規利用獲得を目指し、年間を通して10件の契約となりました。9月には新型コロナウイルス感染症対応による自主休業を行い減収となりました。下半期は営業活動を再開し、新規の



居宅介護支援事業所からも新規利用者の方を獲得することができました。

居宅介護支援事業所は件数・収益とも昨年よりも増えており、月別予算は7、9月と達成しました。しかし、要介護の方よりも要支援の方の方が増えており、業務負担は増えていますが、それに見合った収入が得られていない状況です。

### 有料老人ホームひなた

昨年より18床満床状態を継続していたが、8月にお一人入院し、そのまま退去、また老人ホームひなたでの生活が厳しくなってきた方も退去され、9月には3部屋の空室となりました。しかし、3月には空室だっ

た2部屋もうめることができ、4月からは18室満室で2021年度がスタートできます。

### ヘルパーステーションひなた

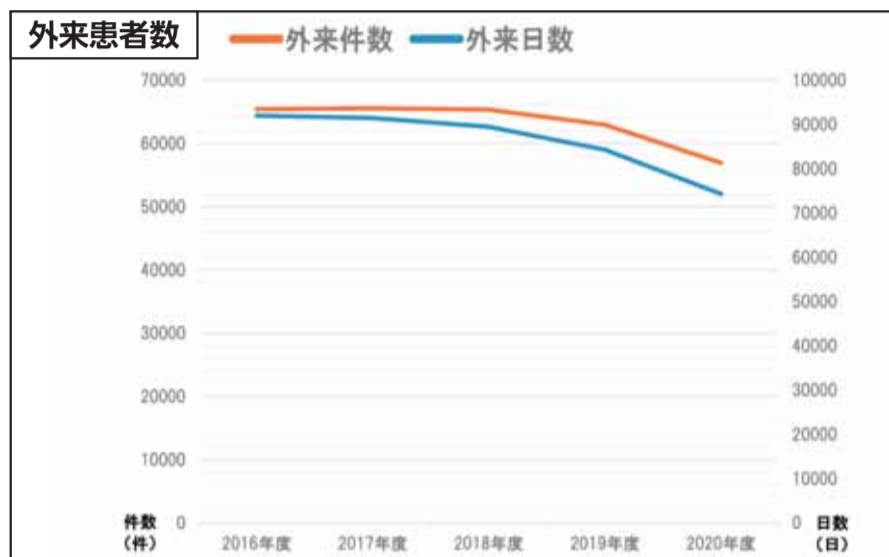
件数・収益とも昨年よりも増えていきます。新規契約が重なる月もあり以前から行っていた営業活動の結果だと考えます。今まで依頼を受けたことがない事業所との契約もあり、今後も範囲を広げていけそうです。下半期に入ってから、相談や契約、訪問日数が増えてきています。

### 地域組織活動

「サロンなかしんさん」が3月中旬から中止とな

り、他の友の会活動もできていません。4月には診療所の駐車場に「ひめつるそば」を植える活動をして頂きました。上半期中にはサロンに来て頂いていた方のお宅へ訪問しました。訪問先では話をする機会が減り寂しいとの声を頂きました。また、『「サロンなかしんさん」で買い物する場所がなくなり困っている』という声を聞いたため、下之一色地域の町内会長さんたちと買い物支援について検討を開始しました。下半期は「いのちの相談所」を診療所の外で開催した。サロンに来られていた地域の方から声をかけてもらいました。

名南会協同基金は、2020年度1000万円の目標でしたが856万円と目標達成できませんでした。



法人4事業所外来の合計 (名南病院・名南ふれあい病院・名南診療所・中川診療所)



法人4事業所及び施設の入院・入所の合計(名南病院・名南ふれあい病院・介護医療院名南ふれあい病院・名南介護老人保健施設かたらいの里)



法人全事業所の総事業収益



## 医療法人名南会 第56回定時社員総会 概要

**2021年3月27日(土) 金山・労働会館東館2階ホール 午後2時～3時10分**  
**出席社員総数は708名(出席 60名、委任状出席 648名)。**

本総会の開催は、当法人の「特定医療法人」への移行に伴う「法人新定款」に基づき、定時社員総会の開催が、年2回3月及び5月開催となったことによる開催です。本3月定時社員総会は、①翌年度の事業計画及び収支予算の決定、②翌年度中の借入金額の最高限度額の決定、を行いました。


冒頭に三宅隆史理事長より挨拶を受け、西本専務理事より議案提案・討議の後、議案は全て全員賛成で採択されました。

**・総会議案審議(主要議題のみの掲載)**

**第2号議案**  
**2021年度活動方針及び事業計画承認の件**  
 (2021年度事業計画の重点課題方針について)  
 [6ページ] 医療法人名南会2021年度方針のとおり

**第3号議案**  
**2021年度基本予算承認の件**  
 2020年度は、基本的に第8次長期計画に沿った資金対応ができています。21年度も同長期計画の資金対応目標に沿って、各事業所での

毎月の経常利益予算達成を意識した管理運営を強めていきます。経常利益予算は第8次長期計画の概ね沿った208百万円とし、有料老人ホームひなた以外の全ての事業所で黒字予算とします。事業収益は介護報酬改定も含めて積極的な予算とし、事業費用は人件費など必要な費用は確保しつつ削減を基本にします。設備投資は、従来どおり年間1億円以内とし、医療活動方針や資金状況を見極めて対応していきます。名南会協同基金は、1億2千万円目標とし、小口多数を意識し、件数増をはかり、共同組織(友の会)の拡大をはかっていく計画とします。



第56回総会

**第4号議案**  
**2021年度借入金最高限度額決定の件**  
 本法人の2021年度借入金最高限度額を70億円とします。

その他、理事小岩朋宏氏より「名南病院における新型コロナウイルス感染症に関するこの一年間のとりくみについて」特別報告、高橋祐介評議員「4月名古屋市長選挙の情勢について」、青木好子評議員「名南健康友の会緑支部・たまり場づくりのとりくみ」について発言がありました。

# 医療法人名南会 2021年度方針

2020年度は、新型コロナウイルス感染症とのたたかいの一年となりました。愛知県では第3波が減少となりましたが、第4波に備えて予断を許さない状況は続いています。この間の経験で、パンデミックの非常時に対応できない医療・介護提供体制の脆弱性が明らかになりました。この事態は、いのちと健康、暮らしを自己責任で守ることを国民に強要し、あらゆる分野を市場化し、利潤と効率を最優先する政治がもたらしたものであることがいっそう鮮明となっています。市中感染が広がり、感染経路が不明なケースが増大する中で、感染を早期に発見し、対策を講じクラスター化を防ぐことが重要です。また、感染対策を徹底しつつ生活・事業を継続できるよう、政府からの経済支援が欠かせません。医療・介護を守るため、すべての医療機関・介護事業所への財政支援も不可欠です。そのいずれにも政府は目を背け、GOTOキャンペーンやオリンピック開催に執着しています。

医療法人名南会では、感染症から職員を守り抜き、メンタルヘルスを含めた健康管理、生活の維持・向上をもっとも重視してきました。全日本民医連・愛知民医連や地域の医療機関との連携による事業所での感染対策への不断の努力、「コロナ禍における名南病院の相談事例(パート1~7)」にみられるような困窮事例への対応、健康友の会と共同したいのちの相談所活動やフードパントリー、訪問行動や電話かけなど地域に出る活動、「医療・介護をま

もれ」の運動と経営対策の強化など経営を守る取り組みを強めてきました。

核兵器禁止条約は1月22日に発効し、54カ国が批准(2月19日時点)、戦後初めて核兵器の禁止を確固として位置づけた軍縮の枠組みに入ります。日本政府が条約を批准しないと明言していることに対し、「唯一の戦争被爆国である日本の政府に核兵器禁止条約への署名・批准を求める署名」の取り組みが求められます。

政府は、健康保険法等改定案と医療法等改定案を今国会で強行しようとしています。これらの法案は全世代型社会保障改革にもとづき、高齢者医療費2倍化、国保料のさらなる値上げ、病床削減推進、勤務医の長時間労働の温存などが含まれています。名古屋市では、東部医療センター・西部医療センター・緑市民病院・厚生院の名市大病院への統合が行われようとしています。地域で大きなたたかいを広げていきましょう。

医療法人名南会は、2020年度から2022年度までの第8次長期計画にもとづいて、今後の名南会の展望をつくり出そうとしています。コロナ禍もあり、経営的には展望を持ちにくい状況もあります。だからこそ、長期計画にもとづく予算管理、医師をはじめ職員の育成、健康友の会との共同を民医連綱領の立場で貫いていきます。



## 2021年度の重点課題方針

### ① 事業所で質の高い感染対策を徹底し、患者さん・職員を守り抜き、コロナ禍の医療・介護活動を発展させる

質の高い感染対策が引き続き最重点となります。コロナ禍の中、外出制限による運動不足や閉じこもり、受診抑制による疾患の悪化が見られています。多くの患者さんは医学的に多疾患併存状態にあり、貧困や社会的孤立が背景にあるほど困難を伴います。地域の医療機関や介護施設や行政との「連携」、多職種による「協働」を深めていきます。

### ③ 第8次長期計画にもとづく経営管理を強め、毎月の予算達成にこだわり今後の名南会の展望をつくり出す

政府の低医療費政策のもとにコロナ禍が襲い、医療・介護経営は深刻な状況が続いています。第8次長期計画にもとづく見通しを持った経営管理、日常的な「全職員の経営」を貫く管理運営を強めていきます。名南会協同基金の整備を行い、健康友の会との共同で目標を持って取り組みます。政府・自治体に向けた経営を守るたたかいを重視します。

### ⑤ 医師をはじめとした職員確保を強め、民医連綱領と民医連総会方針を確信に職員育成と職場づくりを進める

医師、看護師の確保と育成を強め、政府の政策動向にも注目し、働き方の改善を進めます。第8次長期計画以降の展望を持って、次代を担う役員・管理者の育成を重視します。民医連と名南会の展望に確信を持ち、民医連綱領と日本国憲法、名南会の歴史を学ぶ学習運動に、カンファレンスの充実、Webの活用など工夫して取り組みます。

### ② 政府の全世代型社会保障改革に対し共同の力でたたかい、社会保障の充実と平和な日本への転換をはかる

全世代型社会保障改革・社会保障解体とのたたかいが正念場となります。職場・友の会で学習を強め、75歳以上の医療費負担2割化反対、公立・公的病院の統廃合の撤回を求める運動、生活保護基準引き下げの違憲訴訟への支援活動を強めます。患者・利用者の困難な実態や事例を把握し、当事者として主体的に国民的な運動に参加します。

### ④ コロナ禍でこそ名南会と健康友の会の共同を広げ、居場所づくり・いのちの相談所活動でまちづくりを進める

無差別・平等の地域包括ケア、安心して住み続けられるまちづくりが、重要な課題です。地域のさまざまな団体や個人と結びつき、連携を強めていきます。事業所と友の会が協力し、居場所づくり、助け合いや支えあい、職員が医療・介護の専門職として地域で力を発揮し、友の会員拡大、協同基金募集と健診運動を目標を持って強めます。



# 2020年度 地域組織活動

# 安心して住み続けられるまちづくりと 無差別平等の地域包括ケアの実現めざして

【はじめに】 2020年2月より拡大した新型コロナウイルス感染症対策のもとで、これまでの地域組織活動が今までのようにできない中、感染対策を行った上での新たな活動の工夫に知恵を絞りました。地域では、見えない貧困と外出・活動自粛に伴う高齢者の孤立化と身体能力の低下が進行しています。コロナ禍において、仲間の絆と連帯・共同という民医連の共同組織の役割が今本当に求められています。サロン活動や助け合い事業などへの期待が高まる中、今期は①子ども食堂(フードパントリー)と「いのちの相談所」活動、②スタンプラリーの実施とポッチャサロンの拡大、③緑区でのたまり場づくりの活動が特徴的でした。

## ① 「地域の健康づくり」の運動を事業所と共同組織(友の会)が一体となってすすめてきました

特定健診(友の会健診)、大腸がん検診、乳がん検診を重点検診とし、各事業所で年間目標を決め、地域での健康づくりのとりくみをすすめました。

特定健診(友の会健診)、大腸がん検診・乳がん検診を重点に、「名南会健康推進委員会」を中心に友の会各地域支部との共同のとりくみとして、地域で健康づくりを広げる活動にとりくみました。しかし、コロナ禍において、名古屋市委託検診の一時中止や感染予防からの受診控えや日曜健診など集団健診の中止などにより、検診実施数では、特定健診、大腸がん検診、乳がん検診いずれも前年を下回りましたが、乳がん検診は年間1,200件の目標を達成しました。今年度よりバースデー健診の普及拡大をめざし、前年度受診者への確実な働きかけを行いながら、検診を広げる工夫を行いましたが、来年度より本格的な普及実施に取り組みます。

## ② 各事業所・地域ごとに目標をもった資金募集運動では、引き続き多くの社員・友の会員の方に協力をいただき、1億1千万円を超える(3年連続年間1億円超・過去最高の到達)協同基金が寄せられました。



名南病院外来待合室で協同基金の訴え

“名南会協同基金は、差額ベッドのないよりよい病院、施設を支える大切な力”と職員、共同組織の共同でとりくみました。しかし、コロナ禍により、外来や病棟での訴え・地域訪問行動などが制限される中でも、年間で3回のキャンペーン月間に取り組みました。また、秋の月間では“コロナ禍のもと経営困難を抱える多くの医療機関を支え、地域医療を守る協同基金に今まで以上のご協力を”との特別な訴えチラシも活用し、年間目標にわずかに届きませんでした。過去最高の協同基金への協力を得ることができました。

## ③ 友の会員の要求を出発点に、友の会らしい仲間づくり・健康づくりの活動が広がっています。地域に交流の場・居場所づくりをすすめ、民医連

## 事業所と友の会が共同して、安心して住み続けられるまちづくりと無差別平等の地域包括ケアの実現をめざしました。

新型コロナウイルス感染症が拡大する中、「医療の現場で働く名南会の職員さんたちにエールを贈りたい」と名南・中川健康友の会より名南会全事業所に応援ポスターが贈られ、医療介護現場で奮闘する職員は大いに励まされました。また、「名南病院を癒しの空間に」と友の会の協力で『ホスピタルアート』として素敵な作品が病院内に展示されました。



名南病院に友の会よりコロナ対応応援ポスターが贈られました



大磯コミセンで「ポッチャサロン」誕生

コーヒーサロン、お食事サロン、ゆめっこ広場(子育てサロン)、認知症カフェ、中川診療所のサロン(なかしんさん)などは、いずれも活動を制限せざるをえない状況でした。

地域の中の拠点となるたまり場づくりとして、ポッチャサロンを大磯・豊田・わいわい広場に新たに開設するなど、地域の新たな健康づくりの場となっています。



フードパントリー～港区・65世帯参加、弁当は230食提供

ほんわか食堂(子ども食堂・2カ所開催)は四周年を迎え、フードパントリーと活動の形を変え定期的に開催、自治体・町内会などとも連携をとり、利用世帯は開くたびに増えています。



名南病院地域で「いのちの相談所」始まる

コロナ禍における活動として、全日本民医連提起の『いのちの相談所』活動を4事業所すべての地域で展開しました。いのちの相談所アンケートには492名の方から返信があり、特に



中川診療所～外来送迎始めました～

お困りの方についてはこちらから直接連絡をとり、『いのちの相談窓口』で相談対応したり、直接ケーブスワーカーにつなぐなどの努力を行いました。安心して暮らせる





名南健康友の会・お助けプロジェクト (庭の草取り)

まちづくり、高齢者の見守り、生活支援活動が今まで以上に求められています。「お助けプロジェクト (名南健康友の会)」、「助けあいまい会 (中川健康友の会)」には、ゴミ出し、掃除、通院

送迎などの利用希望依頼が例年以上寄せられました。中川区下之一色では市場の閉鎖に伴い「買い物が困難になった」との声が出される中、買い物支援プロジェクトを町内会とも協議しながらすすめました。

ボランティア活動は活動の幅を広げ、新しいボランティアさんも多く加わりました。中川健康友の会では、診療所の緑化をめざして「ひめつるそばプロジェクト」を実施しました。

**4 平和、くらしを守るとりくみ～みんなで学んで みんなで行動～。安倍9条改憲NO!改憲発議に反対する全国緊急署名、安全・安心の医療と介護の実現・社会保障制度の拡充の運動に全力で取り組みました。**

私たちは何よりも「いのちと平和」を大切に、「貧困化」など困難が広がる地域に寄り添い、誰もが医療を受ける権利(生存権・受療権)を守ります。職員と健康友の会が「名南会社保平和委員会」として、これらの運動に共同で取り組んでいます。



友の会・職員共同のスタンディング行動(ビバホーム前)

NPT再検討会議、平和行進、原水爆禁止世界大会、各種全国集会などが中止や活動規模制限となる中、要請に応えたオンラインでの取り組みなどに積極的に取り組んできました。毎月9と19日のスタンディング行動は継続してきています。愛知民医連に結集し、名古屋市国保・敬老パスや新型コロナなどの署名やアンケートに取り組みました。とりわけ、コロナ禍のもとで高齢者のいのちと健康を守る「75歳以上の医療費窓口負担2割化反対」の運動は今後も重要です。

改憲発議反対署名1184筆、安全・安心の医療介護実現署名1064筆、核兵器禁止条約批准署名1182筆、75歳以上の

医療費負担の原則2割化に反対する署名1267筆でした。

**5 名南・中川健康友の会は9,314名の会員数となりました。名南健康友の会緑支部では、「名南会の事業所開設」の要求に基づく、新たな拠点「たまり場」づくりと大幅な会員拡大・班増やしを実現しました。**



緑区に5つ目の班が誕生

名南健康友の会緑支部では、「私たちの地域に名南会の事業所を」との声が高まる中、目標1000万円の資金募集を達成し、緑区鳴海町にみんなの力で『たまり場(みどりの広

場)』をつくりあげました(4月4日開所)。

緑区では5つ目の班(たんぼぼ班)、名南病院地域では白鳥丸班が新たに誕生しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を見ながら、班会や健康ウォーキングなどのとりくみを少しずつ開始してきました。

共同組織(友の会)の会員数の大幅増、さらなる活動の発展に向けて思い切った組織整備を進めることとし、名南・中川健康友の会の組織統合、新たな地域支部づくりについて検討・準備をすすめてきており、今年の春の総会で実現の予定となりました。



4月4日 「みどりの広場」オープン



4月4日 「みどりの広場」開所式

